

金属工芸付属品および本体一部 修理報告書(抜粋)

元興寺文化財研究所

平成27年度

1. 保存処理対象資料

黒漆厨子	蝶番金具	4点
	格狭間覆輪金具	1点
	隅金具	4点

2. 作業内容

2-1. 金具の取り外し

蝶番金具4点の取り外しを行った。厨子本体及び塗膜面を傷つけないよう注意しながら、釘抜き用道具類を用いて一本ずつ釘を抜き、蝶番金具を取り外した。

釘が絵画面に架かっている箇所は、蝶番を取り外すことで画面に損傷を与える可能性があるため作業は行わず、絵画が取り外されてから蝶番を取ることにした。

覆輪金具1点についても固定されている釘を取り除き、金具を取り外した。

隅金具4点は、取り外し時に塗膜の劣化により剥離部分があったため、兎膠（グルー：ホルベイン工業社製）を用いて剥落止めを行った後作業を行った。

2-2. 厨子の輸送

作業のために愛知県美術館から研究所保存科学センターまで研究所所有美術品専用車を用いて輸送した。

黒漆厨子は研究所職員が、美術梱包を行い、美術館担当者の同乗の上輸送した。

搬入後、開梱し異常のないことを確認した。

2-3. 黒漆厨子のエックス線透過撮影

背板の絵画を取り外すための手掛りの場所を確保するため、背板上部の長押及び格子部分を取り除くため、その部分の構造を把握するためエックス線撮影を行った。

画像は添付資料を参照下さい。

2-4. 金具の分析

黒漆厨子に施されている金具について蛍光エックス線による調査を行った。結果は、添付資料を参照下さい。

2-5. 金具の保存処理

ブラッシングによるクリーニングを行い、防錆処置（1,2,3ベンゾトリアゾール含浸による金属の安定化）を行った。

2-6. 報告書の作成

作業内容、保存処理材料を明記した報告書を作成し、提出した。

平成28年度

1. 保存処理対象資料

黒漆厨子 1点
(蝶番金具4点、格狭間覆輪金具1点、隅金具4点を含む)

2. 作業内容

2-1. 金具の保存処理

平成27年度事業時に外すことが出来なかった蝶番金具4点を漆修復作業中に取り外すことが可能となったため、取り外した後、搬入した。その4点については、ブラッシングによるクリーニングを行い、防錆処置（1,2,3ベンゾトリアゾール含浸による金属の安定化）を行った。

2-2. 扉の取り付け

絵画、漆ともに修復作業が終了した為、(株)文化財保存修理所工房から元興寺文化財研究所総合文化財センターに資料を引き取り、扉の取り付け作業を行った。

蝶番金具等を固定するために用いた釘は、使用出来るものは、そのまま使い金具の固定を行った。その他の釘については、新たに銅製釘を用いて、釘の長さを調整しながら使用した。その他の金具についても同様に作業を行った。

蝶番の固定に際しては、オリジナルでは釘を貫通させ、出た部分を折り曲げ固定していた。本修復については、壁体内側の保存を最優先し、釘の長さは壁体より貫通しない長さとし、下穴を開けた後エポキシ樹脂系接着剤（アラルダイト2011：ハンツマンジャパン株式会社製）に顔料を混合したものをを用いて固定を行った。

また、正面扉左側は収縮等により湾曲しており、蝶番の取り付けが出来なかった。

美術館担当者と協議の結果、扉を固定できるように本体側にスパーサーを取り付け、その上から釘により蝶番を固定することとした。スパーサーは銅板を金属接着用エポキシ樹脂系接着剤（GM-5520：有限会社ブレニー技研社製）で貼り合わせ、厚みを持たせた。

2-3. 修復後写真撮影

修復の完了した黒漆厨子の写真を修復前の状態と比較できるようにデジタル一眼レフカメラを用いて撮影した。

2-4. 厨子の輸送

資料返却の為、元興寺文化財研究所総合文化財センター作業場内より愛知県美術館まで輸送した。

2-5. 報告書の作成

修復作業内容、保存修復材料を明記した報告書を作成し、提出した。

以 上